

[博士論文審査要旨]

申請者：三浦 紗綾子

論文題目 部品システム共有の効果：製品カテゴリを横断した技術移転の分析

審査員 沼上 幹

延岡健太郎

青島 矢一

この論文は、部品システムを複数の製品カテゴリにまたがって共有することでどのような効果が得られるのかを実証的に検討したものである。既存研究は主として同一の製品カテゴリ内で部品を共有することがもたらす効果について研究してきた。たとえば、異なる車種で車台が共有される自動車や、企業間で LSI を共有するパソコンやテレビなど、部品システムの共有はコスト効率を高めることが指摘されてきた。これに対して、この論文は、同一企業内で、たとえばテレビと DVD レコーダの部品システムを共有化するなど、製品カテゴリを超えて行なわれる部品システム共有化を研究対象とし、それによって開発効率が高まるばかりでなく、製品の多機能化や高性能化が達成される可能性があることを指摘している点に特徴がある。

この論文は、丁寧なインタビュー調査と広範な文献資料、特許情報、ネット上の製品品種情報などを駆使して、この製品カテゴリ間の部品システム共有効果を明らかにしている。より具体的には、ユニフィエという部品システム共有化を遂行しているパナソニックと、そのような共有化施策をとっていないシャープとソニーを対象として、DVD レコーダとテレビと携帯電話について、製品開発数や開発タイミング、開発人員の数、多機能化などの点で詳細に比較分析している。実証研究の結果、製品カテゴリを超えた自社内の共有化は DVD レコーダでは顕著に見られ、その他については見られないことが判明した。たしかに効率や性能を高めるケースもあるが、他社が企業の枠を超えた共有化政策をとっている場合には必ずしも競争優位のポジションを獲得できるわけではないことが指摘されている。

本論文は、これまでの研究とは異なり、製品カテゴリを超えた部品システムの共有を考察対象に取り上げ、丁寧な実証研究を行なった点に貢献がある。また、製品カテゴリを超えた共有によって、効率性ばかりでなく、性能向上や多機能化が進むことを指摘した点も重要な貢献である。ただし、このような効率や性能向上などの結果変数に影響を及ぼしうる他の変数についての記述がやや不足気味であり、対抗仮説の排除が十分でない部分もある。また、生産性の計測についてももう少し多様な角度からのチェックが必要であるなどの問題も残っている。しかし、このような問題は本論文の本質的な貢献を損なうほどのものではない。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。